「町人文化」の薫りただよう小木のまちづくり
～金の積出から400有余年、港とともに発展した町を次世代へ～

小木町の町並み

小木港まつり

小木港に寄港するクルーズ船

町並み環境保全活動（木崎神社）

歴史的町並みを活かす「扇の市」

「鼓童」アースセレブレーション

ミッション名：　住民団体と協働した「重要伝統的建造物群保存地区」を活かしたまちづくり

着 任 地 域：　佐渡市小木町

着任地域紹介（団体紹介）

小木町は、江戸時代に「佐渡島の金山」から産出した金銀の積出港として開かれ、西廻り航路の寄港地として栄えた港町である。北前船が運んだ物資や諸国の文化は、離島という環境の中で小木独自の「町人文化」として花開き、風情のある町並みや小木おけさなどの伝統芸能が今でも色濃く残る地域となっている。

開港 400 有余年を誇る小木港は、現在も佐渡の南の玄関口として本土（上越市）と定期航路を有し、近年では外国船を含む大型クルーズ船が寄港するなど、多くの来島者を受け入れている。

また、小木町は開港当時から限られた地形を巧みに活かし、地震や大火などの災害を乗り越えてきた特徴的で歴史的な建造物が数多く残る港町として、令和６年８月に新潟県内２例目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

（１例目は同小木地区の宿根木集落）

（世話人）小木まちづくり協議会　　会　長　村川 辰雄（むらかわ たつお）写真左
おぎ町並み保存推進委員会　委員長　岡崎 拓夫（おかざき たくお）写真右
が３年間お世話します。

〇解決したい課題、事業ミッション

歴史・文化・自然・食・海洋性レクレーションなど、様々な観光コンテンツを有す地域でありながら、地域住民の高齢化、人口減少が加速している。集落の農漁業や町場の商工業者も担い手不足による廃業等によって、地域の活力が低下し、空き家の増加が深刻な状況となっている。

・「重要伝統的建造物群保存地区」選定後の「小木町」のまちづくりをサポート
　町並み保存団体との協働で地域内外に対する情報発信
　町並み景観の向上のための企画運営
・町並みの中にある空き家等を活用した「分散型ホテル事業」や
　「２地域居住促進事業」を住民団体との協働により推進
・小木港まつり、扇の市など、既存イベントの開催に係る協働活動
・SNS 等を活用して小木地域の魅力を広報

〇3 年後の目指す姿（当該地域・協力隊員）

当該地域：新潟県内初の重要伝統的建造物群保存地区である「宿根木」と連携し、「小木町」でも町並みの整備が目視でき、住民や観光客に認知され始める。UI ターン者による空き家を活用した住宅や店舗が出現し、町並みの中に人が増え始めている。地域を支える住民団体は NPO などの法人格を持つ団体として更に活動を充実させている。

協力隊員：自身の強みや興味に基づいて、空き家を活用した独立経営者となる。または、島内企業に就職し、３年間の活動で培った人脈等を活かし、引き続き小木町の賑わい創出のために活躍する中心的な人物となっている。

〇協力隊に求めるスキル（人物像）

・コミュニケーションがとれ、地域住民との活動に積極的に参画できる人
・歴史的な町並みに興味があり、その中で生活してみたい人
・空き家の活用や起業等に興味がある人
・常に地域を探求し、SNS 等で継続して情報発信ができる人